

一 次の言葉の対義語をカタカナの中から選んで漢字で答えなさい。

- ① 全体
- ② 子孫
- ③ 感情
- ④ 需要 (じゅよう)
- ⑤ 原則
- ⑥ 出発
- ⑦ 強健
- ⑧ 絶対
- ⑨ 抽象 (ちゅうしょう)
- ⑩ 秘密

ソウタイ  
レイガイ  
トウチャク  
センゾ  
ブブン  
グタイ  
コウカイ  
リセイ  
キョウキユウ  
ビョウジャク

二 次の文章は、映画監督の宮崎駿<sup>はやお</sup>氏が石子順氏のインタビューに応えたものです。文章を読んで後の問いに答えなさい。(字数制限のある問いは全て句読点を含んで答えなさい。)

宮崎

今の若い人達つてのは、全aホウイにレールが敷かれてるんです。レールじゃなくて、もう滑走路なんです。「ぼくの前に道がある」じゃなくて、周りは全部道だらけだと、もう道じゃない。滑走路のど真ん中にいると思った方がいいですよ。それはほんとにしんどいと思いますよ。

しんどくないように、いろいろ目が散るようないろいろなものがあるんです。バイクからゲームから音楽から、映画も面白い物も旅行も、いろいろなことを含めて、お金を払って下されば、楽しい思いにしてあげますよ、というのが全周囲にある。不良化するのもそうでしょう。不良化するのも全部マニュアルができてるんです。かなわないですね。①本当の不良化とは何だろうと思いますね(笑)。

(中略1)

かつてぼくらの若いころは、問題意識を持っていない作品などは最低だ、文学として出来上がっていても問題意識がある方が意味があるんだ、と思ってたんですが、やはりちがいますね。それは自分達が浅薄<sup>せんぱく</sup>だったことを表しているだけです。それからその書き手に能力がないことを表しています。内容がやせていくんだと思います。

例えば「黒い龍と白い龍」という、中国の方の民話があるんですけど、それは、ある村で黒い龍が暴れて、洪水を起こし、山崩れを起こし、人々を苦しめている。自分の息子をそれで失ったある大工の名人が、村の人と協力して自分達で白い龍をつくり、それに魂を入れる。その白い龍が黒い龍と闘い、bコンナンの末、黒い龍を打ち負かす、とまあ大体こんな内容のものです。

実は四人の新しい演出者の研修で、短い話だけれども、これが映画になるかどうか、みんなで演習だということをやったんです。そうすると黒い龍というのは自然の猛威まういを表している。日照りであったり、洪水であったり、嵐であったり、cテンサイを表している。だから黒い龍をただの龍として描いても、魅力がないんじゃないか。もつと無記名な、定かでない、もつと自然現象に近いようなニユートルなもの※1しよう、四人が四人とも言うんですね。

ぼくは全然だめだと言いました。そんなのは見たくも何ともない。全然おもしろくない。それだったら自然災害と闘いましょうと言えいいじゃないか。そう思いませんか。②理詰めのそういう作品が多すぎるんです。ちがうですよ。そうじゃないんです。

食べても食べてもお腹が減る。食べてる時はうれしいんだけど、食べるものがなくなっちゃって、お腹が減ったなと思ってる黒い龍が出てくる。そいつが実に悪意はなくて、愛嬌あいぎょうもあり、陽気で、快活なキャラクターで、何でもかんでも食べちゃう。そういうのが出てくる映画にしたらどうなるか、それで考えてみてくれと言ったんです。結論は出ませんでしたけどね(笑)。

そういう風にならないと、変な言い方になりますが、問題意識ということと世界を眺めて、ここにこんな問題がある、ここにこんな問題があると言って正座して、しかめ面して、それをじつと眺めたって、そんなのは生きたことにならない。世の中というのは問題だらけなんです。国家というのは常に矛盾をはらみ、問題をはらみ、平和の時は俗人がA往B往して、愚者の天国になる。※2それが非常事態とどうか、苛烈かじつな時代には高貴な者はさらに高貴になり、愚者は愚者として激しくなつて、それが露骨ろこつに見える。そういう時代が変わるわけなんです。

だから何か生きる喜びとかがなしに、ニユートルなものが出てきて、それが黒い龍だと言うよりも、その黒い龍が魅力のあるキャラクターで、ガシガシと食べていたら、夜中に冷蔵庫を開けて何か食わないと寝られない自分の姿がそこにあるとか(笑)、これが日本の姿じゃないかと思うやつがいたり、いろんなかたちで受け取られるような懐ふしの深いものにつくらないと、「黒い龍と白い龍」を映画化した時、おもしろくも何ともないだろう。龍と言った時に、ただ凶悪な、今まで映画に出てきたものとか、物語に出てきたパターンでつかまえてしまうと、もうこの企画を扱うdシカクはないと思います。実際に映画になるかどうか知りませんよ。やってみたら、やはりやめた方がいいという話になる可能性は十分にありましたから、その企画はそのままペンディング※3になっていますけどね。

(中略2)

石子

宮崎さんのアニメーションは入口があつて、出てくる時に変わったというか、自分自身の中で感動ということもあるんだろうけれども、見る前より見た後のほうが気持ちが高揚こうやうしている。見て良かったという感じのものが、大勢の人に共感となつて広がったんじゃないかと思うんですけれど……。

宮崎

それはちよつと誤解を招く言葉ですよ。ぼくらは、自分達の映画が達成しているなんて考えてません。ひらきなおつて言えば、eココロザシちよつとだけはもう一寸大きいんですが……(笑) こういう映画をつくらう、だいたいこれでいけばいいんじゃない、という話で進めていくうちに、途中で自分達のプランが瓦解※4するんです。

これはちがう。これでいいたら、この子は成長するどころかひねくれるだけだとか、こんな話はおもしろくも何ともないとか、変わって行って、自分たちのプランが瓦解するんです。本当のことを言いますと、④瓦解したところからようやく始まるんです。そういうことを言っているんです。

ですから出口と入口が同じというのは、初めから、予定したとおり書かれたものなんです。どこへ行く

かわからないという危うさを、自分たちの中に許さない作品というのは、見ていておもしろくないです。とんでもないところへ行っちゃって、收拾がつかなくなるんじゃないかという不安に脅えながらも、行くしかないだろうという作品のほうがおもしろい。やはり脳みその表側だけでつくられたものは、どんなに読まれていようが、どんなに受け入れられていようが、変な言い方をすれば、恐るるに足りないというか、Cに足りないものだと思います。

〔インタビュー宮崎駿氏に聞く アニメーションで描く世界〕

※1 ニュートラル…かたよらない様。中立的。

※2 愚者………おろかな人間。

※3 ペンディング…未解決の状態にとどまること。

※4 瓦解………壊れること。

問一 傍線部a～eのカタカナを漢字で答えなさい。

問二 「A 往 B 往」は四字熟語です。空欄 A、B に入る一字をそれぞれ

れ答えなさい。

問三 「C に足りない」は慣用句です。空欄 C に入る最も適切な言葉を次の中から選び、

記号で答えなさい。

ア 取る                    イ 考慮する                    ウ 身の丈                    エ 面白み                    オ 基準

問四 傍線部①「本当の不良化とは何だろうと思いますね」とありますが、宮崎氏が考えている「本当の不良化」とはどういうものですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 親や先生が決めた進路にいやいや従う子供が、楽しいことを我慢することと引き換えに、好きな進路を選ぶこと。

イ あらゆることを決められて苦しんでいる子供が、その苦しみから逃れる方法を教えてもらって楽になること。

ウ 決められた進路に満足できない子供が、他人の指示に従わずに自分の人生を切りひらいていくこと。

エ 楽しいことを決めてしまう親や学校に反発し、信頼できる大人を探して別の楽しみを教えられてもらうこと。

オ 子供から楽しみを奪う大人や社会に対して、自分たちで子供なりの楽しみを作り上げていくこと。

問五 傍線部②「理詰め的那いう作品」とはどのような作品ですか。次の文章の空欄部分に当てはまるように、文中から四字で抜き出して答えなさい。

がある作品。

問六 波線部「中略1」と「中略2」に挟まれた部分で、宮崎氏が「黒い龍と白い龍」の例を使って主張している理想的な映画作品とはどのような作品ですか。七十字以内で答えなさい。

問七 傍線部④「瓦解したところからようやく始まるんです」とありますが、どういうことですか。次の空欄 I、II にあてはまる語句を本文中からそれぞれ抜き出して答えなさい。

作品の I (三字)

がうまく行かなくなった時に初めて、

映画本来の魅力である

II (十一字)

危うさが生まれ、面白い映画になるということ。

問八 宮崎氏が言う「おもしろい」作品に必ずしも必要でないものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア ニュートラルな自然現象。

イ 世界の危機を救う高貴な者。

ウ 生きる喜びを感じられるキャラクター。

エ 当初のプランを変えない作り手の粘り強さ。

オ 変更や失敗を恐れない作り手の決意。

三 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(字数制限のある問いは全て句読点を含んで答えなさい。)

※<sup>1</sup> オール木成に入ったという事で、私はピアノをやめることにした。毎週火曜日の四時からレッスンだったが、オール木成の練習は毎日六時ごろまでであるから行けなくなったのだ。

でもそれは、ただお母さんを納得させるための言い訳だ。オール木成の中でも習い事をしている子は何人もいる。※<sup>2</sup> やさおに言っつて、決まった時間に帰る子もいるし、休日に曜日変更した子もいる。

だからオール木成に入ったことと、習い事をやめるということは、イコールではない。でも、初めのミーティングのときに、やさおはこう言っつた。

「練習は必ず出ること。病気、けが以外での欠席は原則的に認めない」

実際このひとことで何人かは習い事をやめた。お母さんたちも、学校の行事という事で、案外簡単に習い事をやめさせてくれたみたいだつた。そう、大人なんて結局なんだつていいのだ。学校から帰つてきて、すぐにテレビを観たりゲームをしたりしないで、ためになる「何か」をしていれば満足なのだ。

私はこれが絶好のチャンスとばかりにオール木成のことを持ち出して、ピアノをやめることを堂々と言っつた。するとお母さんは、拍子抜けするくらい A 了承してくれつた。こんなだつたらもつと早く言えばよかつた、と後悔したくらいだ。

私はピアノが大きらいだつた。ピアノというより、ピアノの練習がいやでしかたなかつた。月曜の夜のあのあせり。あの感じ。でもどうしても練習をする気になれないもどかしさ。

私はみどりちゃんのことを考える。みどりちゃんと私は、同じピアノ教室に通つていて、その教室で春に発表会があつた。市内の同じ系列のピアノ教室の生徒が集まつて、地元の文化会館で行われた小さいのだつたけど、私は案の B 「練習をする」というセンスがまつたたくなく、いつまでたつても上達し

なかった。私の弾く曲は、十分実力の範囲内の曲だったし、時間は十分すぎるほどあった。

にもかかわらず、いつまでたつてもちつとも上達しない私に、先生はあきれかえりながら、最終手段として「補習」という、思いもかけなかったとんでもない隠し技を提示してきた。

火曜日のレッスン日以外に、なんと日曜日まで特別にレッスンするというのだ。もちろん、発表会までの期間限定だし、これは先生の好意であつて無理に行かなくてもいいのだけれど、わざわざ先生が自分の時間を割いてまで教えてくれるというのに、行かないわけにはいかなかった。①お母さんは先生に、申し訳ない、はずかしい、感謝します、と深々と頭を下げた。

でも、私は腹立たしかった。せつかくの休みにレッスンに行くなんて、まったくばかかっている。本番になればどうにかなるし、今までの経験からすると、きっと私は三日くらい前から猛練習をして、なんとか弾けるようになるはずなのだ。

それにこの補習は私のためじゃない。本番で先生が恥をかかないための補習レッスンだと思えなかった。

②私はしぶしぶとレッスンに行き、うんざりしながらみどりちゃんに、そのことを告げた。みどりちゃんは、同情とも哀れみともつかない変な表情をして、

「大変だね」

とひとことだけ言った。

しかし、それからしばらくたつたある日、みどりちゃんは私に、

「うらやましいよ」

とポツリと言つたのだ。

「えっ、何が」

「ピアノ。レッスン日以外にも、先生から教えてもらえるなんていいなあ……」

私は自分の耳を疑つた。

「なんで？なんでなんで。だつて無理やりやらされてるんだよ。あまりにも下手だから、しょうがないからやつてるんだよ。先生だつて本当はイヤイヤなんだよ」

「ううん、ちがうよ。さえちゃんには上手になつてもらいたいんだよ。期待してるの、先生は。発表会でうまく弾けるようになって」

「ちがう。絶対にちがうよ。ねえ、みどりちゃん、ほんとにそんなんじゃないんだよ」

「ううん、お母さんも言つてた。あんたも頼んで教えてもらいなさいって……」

そんなんじゃないのに……どうして……。③私はこのとき本当に、すごい衝撃を受けた。

みどりちゃんは、みどりちゃんの実力より少し上のランクの曲を発表会で弾く。それは、みどりちゃんならできると先生が確信したからで、補習をしないのは、そんな余計なことをしなくても、みどりちゃんはずっと家で練習してきて、完璧に弾けるのがわかつているから。

それなのに、なんでなんだろう。うらやましいなんて。人によつてこんなに受けとめ方がちがうなんて。それはとても怖いことで、私はその日みどりちゃんに言われたことが、頭から離れなかった。自分がこうだと思つていたことが、ほかの人にとってはまったく別の意味を持つ。怖いと思つた。ものすごい恐怖だった。

みどりちゃんも、今月でレッスンをやめる。私は火曜日のレッスンがなくなり、課題を与えられなくなつたことで、これからはもうピアノを弾かなくなるだろう。でも、みどりちゃんはレッスンをやめたあと、ずっとピアノを弾き続けることだろう。自分ですすんで譜面を買つてきて、それができるようになるまで何度も練習をするだろう。

発表会当日、私は自信のなさのために、少しばかりテンポを速く弾きすぎてしまったけれど、それ以外はけっこううまくできた。先生もほっとした様子で、笑顔を見せてくれた。

でも、練習では完璧だったみどりちゃんが、本番で二回もミスってしまったのだ。みどりちゃんはそれでも堂々としていたけど、心の中ではきつと残念に思っていたと思う。

それとも、私に対して「ほらね、さえちゃんは補習をしたから上手に弾けたでしょう。私は教えてもらえなかったからまちがえて当然なの」と思っていたのかもしれない。そう考えると悲しかったけど、終わってから「ほっとしたねー」となんのふくみもない晴れ晴れした笑顔で言われて、私はそんなふうに意地悪く思ってしまった自分を呪った。

先生は、おおとりのみどりちゃんのまさかのミスに顔をしかめていて、私は④「本当に大人は余計なことをする」と補習のことを思い、「だからこんなことになる」と⑤少し残酷な気持ちで先生のゆがんだ顔を遠くから眺めていたのだった。

(椰月美智子『十二歳』)

※1 オール木成……主人公が選ばれた木成小学校の選抜ポトボールチーム。

※2 やさお……オール木成の監督の先生のあだ名。

問一 空欄 A に入る最も適切な言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ノリノリで                   イ そつげなく                   ウ こわごと  
エ ぎこちなく                   オ あっけなく

問二 空欄 B に入る漢字一字を答えなさい。

問三 傍線部①「お母さんは先生に、申し訳ない、はずかしい、感謝します、と深々と頭を下げた」とありますが、「お母さん」が「先生」に対して「はずかしい」と感じたのはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問四 傍線部②「私はしづぶとレッスンに行き、うんざりしながらみどりちゃんに、そのことを告げた」とありますが、この後の「みどりちゃん」の様子の説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 特別レッスンは大変なのは間違いないが、厳しい先生についていけば必ず上手になるのだからと「私」を励ましている。

イ 先生の特別レッスンはそれほど厳しくなく、むしろ楽しいものなので、自分も受けてみたいというらやましがっている。

ウ 特別レッスンを受けることを暗に自慢している「私」に対して、大人びた対応で「私」の子どもっぽさをたしなめている。

エ 確かに特別レッスンは大変だと思いつつも、先生が「私」に目をかけていることの裏返しだと感じて焼きもちを焼いている。

オ 「私」が特別レッスンを本当に嫌がっていることを知り、なんとかしてあげたいと思いつつどうにもできずに途方にくれている。

問五 傍線部③「私はこのとき本当に、すごい衝撃を受けた」とありますが、何が「すごい衝撃」だったのですか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 親友だと思っていたみどりちゃんが先生の味方になったこと。
- イ みどりちゃんが自分と全く違う考え方をしていることが分かったこと。
- ウ みどりちゃんが自分に見せかけだけの親切な言葉をかけてきたこと。
- エ 「私」よりも演奏が上手なみどりちゃんから馬鹿にされたこと。
- オ みどりちゃんのお母さんが「私」のお母さんよりも物分りがよいこと。

問六 傍線部④「本当に大人は余計なことをする」とありますが、私が補習を「余計なこと」と考えているのはなぜですか。空欄に当てはまるように、文中から六字で抜き出して答えなさい。

私はどこかで自分の力を信じているので、 なんとかかなると思っ

問七 傍線部⑤「少し残酷な気持ち」とありますが、どのような気持ちですか。次の空欄 I、II にあてはまるように文章を完成させて説明しなさい。

I せいで  
先生が II ことになったと思っている。

問題は以上です。

